琉球大学学術リポジトリ

琉球における 4-H クラブの教育的および社会的問題点の研究(農学科)

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農学部
	公開日: 2008-02-14
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4542

琉球における 4-H クラブの教育的および社会的問題点の研究

古　謝　瑞　幸*

Zuiko KOJA: study on educational and social factors influencing the 4-H Club work in the Ryukyus.

I はじめに

民主主義社会における農業および農村社会の改革にとって，最も重要で先決の問題は，リーダーシップに富んだ自主的な人間の育成であるといわれている。それは今日，都市との経済的，および社会的格差，労働力の質量の低下，そしてたえず世界経済の影響を受けて窮地に立たされている農業などの諸問題に直面している琉球の農村社会にとっても，また同じことである。そのような社会的要求に応じて人的資源を育成するための非公式の教育組織として 4-H クラブがある。

およそ 60 年前，初めてアメリカで組織されたその 4-H クラブは，特に第二次大戦直後を起点として世界的な運動に発展し，今日多くの国々の最大の自主的青少年団体として，力強い活動を行なっている。

琉球の 4-H クラブは，普及事業の一環として 1950 年に創設された。Table 1 にみられるように当初の数年は組織の数もメンバーも比較的に多く，クラブ活動も盛況をうかがわしめるが，その後は現在に至るまで全く低調な歩みを続けている。その主な原因は経済的理由による離農現象，すなわち内外の第二次，第三次産業に青少年男女が地すべり的に流出したことにもよるが，それのみではない。農業センサスやその他の調査資料によるとほとんどの部落または市町村には少なくとも 4-H クラブを組織するだけの人員が現存する事実があるにもかかわらず，一般的にクラブ活動が低調であり，また新規のクラブ結成の例が非常に少ない。しかして，これらの問題は何かの教育的および社会的要因に影響されているものと考えられる。

この研究はそのような従来の琉球における 4-H クラブ活動の低調を問題点とし，それに影響を与えている教育的因子と社会的因子を究明することを第一の目的とし，それにいくらかの対策を講ずることにした。

末筆ながら，この調査研究に協力して下さった農業改良普及所，農業改良課，市町村役所，現および元 4-H クラブ員，その他の皆様に深く感謝申し上げます。

II 琉球の 4-H クラブの歴史的背景の概略

琉球に初めて普及事業が設置されたのは 1950 年 4 月である。それは第二次世界大戦直後に始まった直接物資援助の制度が減退した頃で，1945 年より同 50 年までは戦災による農民と農業の復興をスピードアップするために政府から作物の種子，肥料，農薬，農機具，家畜などの無償配布が行なわた[2]。1950 年 4 月，琉球農林省の発足によって農業改良局が設置され，11 月に初めて農業改良普及員

* 琉球大学農学部普及事業研究室

が採用されて各市町村に駐在した。このように普及組織が行政的に機構化したのは4月であるが，予算，その他の関係で活動を開始したのは 11 月である[18]。1951 年8月最初の生活改善普及員が採用された。

4-H クラブの発足当時については記録が見当らないので，当時の同局の普及係，又吉盛忠氏の記憶を参考にすることにした。それによると，4-H クラブは最初から普及事業の一環として機構化されていたが，全く新しい事業ということと，農業改良のみに主力が注がれたために，しばらくの間研究課題として保留されていた。その頃，ハワイ大学普及部家政関係のフィーゲン女史が日本からの帰途琉球に立寄り，直接同局に訪れてきた。彼女がもっとも深い関心をもって問うたのは 4-H クラブ活動であったが，そこには具体的な構想がまだ出来上っていなかった。関係職員を集めて非公式のデスカッションが開かれ，クラブ組織の勧告がなされた。早速それをきっかけとして又吉氏が 4-H クラブ担当を命じられ文献やその他の資料を寄せ集てめ組織についての具体的な構想を作成することになった。その結果，第1回目の説明会が今帰仁村字謝名で開かれた。同村駐在農業改良普及員松田幸福氏や村役所の協力を得て，会場には多数の青少年男女と父兄が参加した。

戦争によってほとんどの農業基盤が破壊され，生活は苦しく，農村で働く意欲を失った混迷期の青少年が，現金収入を目当てにして都市や軍作業に流出したのもその頃である。

1951 年8月，琉球で第1号の 4-H クラブが今帰仁村字謝名に誕生した。謝名 4-H クラブと称し，31 人のクラブ員（男 25，女 6）で構成された。（松田幸福氏日記より）

それに続いて全琉球には同年間に7つの新しいクラブが結成された。

同年 11 月普及課長松田祐一氏が普及事業視察のため日本本土に派遣された。群馬県新里村の代表的な3つの 4-H クラブに接し，組織，デモンストレーション，プロジェクト活動などについて実地に見聞した。同氏はその成果を普及便りに発表し，関係者の参考に寄与せしめた[20]。これはおそらく本土の 4-H クラブの影響の初めであろう。

1952年2月中旬，沖縄中南部地区のクラブ員と指導者を対象としての講習会が中央農業研究指導所で1週間にわたって開かれた。米国琉球民政府農務課のバーワース氏が講師として招かれ，アメリカにおける4-Hクラブ活動について講話を行なった。同氏は講話の中で“4-H クラブは農村の青少年が農業や生活改善の方法を勉強するのが主な目的であるが，そればかりではなく，クラブ員同志がりっぱな市民としての教養を高めるのも大きな目的である[22]”と強調した。この講習会は北部地区を対象として3月1日から名護農業研究所でも行なわれた。その時の記念写真によると 40 余名のクラブメンバーが出席している。

1952 年9月，琉球大学助教授，池原貞雄氏が米国留学から帰郷し，関係指導者に 4-H クラブ事業についての指導助言を行なった。同氏はミシガン州立大学に在学中，時々州内の 4-H クラブ員の家庭に宿泊し，4-H 活動に関する実際的な経験を習得する機会を得た。

1952 年 10 月，農村青少年のハワイ研修計画が開始され，第一次として3人の男子が派遣された。

政府の資料によると 1952 年度の 4-H クラブの総数は 22 で，今日に至るまでの最高の記録である。それは海外における知識，技術の提供や講習会が活発に行なわれた影響であろう。

1953 年，第一回全琉 4-H クラブ実績発表大会が開催され，メンバーのリーダーシップの向上と技術交換にとって大きな刺激となった。

Table 1. Number of 4-H Clubs and members of the Ryukyus by fiscal year

Fiscal Year	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59	'60	'67
1. No. of clubs	7	22	19	20	20	15	10	9	4	—	17
2. No. of members	109	285	205	255	309	154	111	103	40	—	94
3. 2/1	15.6	13.0	10.8	12.8	15.5	10.3	11.1	11.5	10.0	—	5.5

1954年5月，琉球唯一の女子のみの集団，渡嘉敷4-Hクラブが結成された。当初は10名の男子もいたが，漁業に従事しているため間もなく脱会し女子のみとなった。

1955年度まではクラブ数もほぼ同じで，クラブメンバーはむしろ309人に増大しているが，それ以後は年々減少し，1959年度にいたってクラブ数は4に激減している。

1958年11月5日から3日間，第1回全琉球4-Hクラブ技術交換大会が琉球大学与那演習林施設で開かれ，50人の男女4-Hリーダーが出席した。

1959年8月，第2回極東農村青少年会議が東京で開かれ，民政府係官，E. K. 西村氏の引卒で男子4-Hクラブ員2人，農業改良普及員，生活改善普及員各1人が出席した。

1959年の末期頃は有名無実のクラブが多く実数がつかめない程に活動も低調になった。

1962年6月，第4回極東普及事業ワークショップが韓国のソウルで開催され，琉球代表として故仲里文代氏と筆者が派遣された。筆者は琉球の4-Hクラブ事業をレポートの主項目の一つとして発表を行ない意見の交換をはかった。

1965年3月，東京で開かれた全国農村教育青少年会議に初めて琉球の4-Hクラブ代表として2人が派遣さにた。さらに同年8月，栃木県で開かれた全国農村青少年技術交換会議にも初めての琉球代表として4人の4-Hクラブ員が派遣された。

同年8月25日，琉球政府立法院は農業改良促進法を制定した。それによると研究集団（4-Hクラブを含む）や篤志指導者の育成が強調される。

同年11月，第8回全琉4-Hクラブ技術交換大会が，羽地村野外活動センターで開催された。講師としてハワイ大学普及部4-H係官 James Y. SHIGETA 氏と筆者が招かれ，4-H活動促進について講演が行なわれた。それに続いて技術競技，討論会，キャンプファィアなどの活発なプログラムが展開された。

1967年，日本全国4-H連絡協議会に正式加盟し，琉球支部となった。

III 調査の方法

1. 調査対象

この研究は琉球の4-Hクラブの問題点を究明するのが主な目的であるので，全琉球を範囲とする現および元4-Hクラブ員を主体に若干の関係指導者を調査対象にした。

2. 調査対象の選定条件

① 代表的なクラブリーダーの経験者であること。
② 男子のみに片寄らず，女子も加えること。
③ できるだけ異なったクラブから対象を選出すること。

17年余の歴史的背景をもつので，現および元クラブ員の年令層の幅が広い上に，職業もまちまちで，各人の住所を調べて面接をするにも困難を極めた。調査の主な手がかりとして各地区農業改良善及所とこれまでに4-Hクラブの組織をもったことのある市町村役所の産業課職員の協力を求めた。

3. 調査期間

1966年7月より1968年6月までとする。

4. アンケート

アンケートは全部で62部を取扱い，その中の約70%（43人）分が回収された。その結果は Table 2 と3の通りである。なお八重山地区も当初は調査予定に入れていたが離島という共通の条件で宮古地

Table 2. Number of questionnaires handled and collected.

Disrticts	Northern Okinawa	Central Okinawa	Southern Okinawa	Miyako	Yaeyama	Total
Handled	27	5	10	20	—	62
Collected	15	1	10	17	—	43
%	55.6	20.0	100	85.0	—	69.4

Table 3. Status of members

Status	*Present member*		*Former member*		Total
Sex	M	F	M	F	
Number	26	1	13	3	43

M=male F=female

区をもって代替させることにした。

IV 考 察

1. 教育的因子の考察

1) プロジェクト偏重のクラブ活動

アンケートの結果によると 43 人の回答者の中 49% が従来の 4-H クラブ活動はプロジェクト活動に偏重して単調であるので，もっと巾の広いものにすることを望んでいる。つまり生産技術のみではなくして，教養部門を含めた総合的な 4-H プログラムにしたいということである。この回答はほとんど離島あるいは僻地のメンバーから寄せられたものであるが，都市と農村との経済的，社会的格差からくる農村の後進性を改善しようとする若者たちの力強い意欲をうかがわしめるものである。

プロジェクトは 4-H クラブ活動の中心なりとよくいわれるが正にそうである。しかし，それはプロジェクトを実行することによってものごとを科学的に判断し，解決する態度を養うというクラブ活動におけるプロジェクトの本質を意味するもので，決してそれのみに片寄ってはいけない。プロジェクトは青少年が実際に行ってみることによって学ぶ (Learning by doing) ための一種の学習法であって，それ自体が目的ではない。

4-H クラブの根本目的は農業後継者を育成するということではなく，次代の農村社会をリードする有能な責任感のある青少年男女を育成することである。それについて Stone 氏も "The boy and girl are the most important of club work, but projects help develp skills, good work habits, responsibility and other characteristics which enable a club member to grow to a happy, well adjusted adult"[23] とプロジェクトよりも指導者性を強調している。また，L. D. Kelsey と C. C. Hearne らは次のように述べている。—The basic purpose of 4-H clubs is the development of boys and girls so that they may become responsible and capable citizen; it is not to prepare them for life on a farm[7]。これによるとクラブは単に青少年をして農村生活に適合せしめるものではなく，もっと広い意味における社会的な指導者の育成の場であるということを強調している。これは当初農村の青少年クラブとして芽生えた 4-H クラブが，もはや農村のみのものでなく，その役割が高く評価されることによって都市の市民育成の場としても拡張されつゝあることを裏付けるものでもある。

従来の琉球の 4-H クラブ活動に対しそのメンバーたちがプロジェクト偏重を反省し，その改善の必要性を認めているが，それは指導力の欠如と農村家庭を取巻く経済的諸条件がそうせしめたものと思

われる。何故ならば，青少年は一家を支える労働力の一部であり，一般的に耕地面積が少なく，プロジェクト自体が家庭生活と直接に結びついているからである。そのために生産活動を重視しすぎて，総合的なプログラムのアンバランスを招いたものと考えられる。

次代の社会的リーダーを育成するには，クラブ活動の範囲を可能な限り大きく広げ，青少年のもっているあらゆる可能性を引き出す学習の機会を与えることが大事である。

さらにこの問題と関連させて回答者たちは次の諸点を指摘している。——① 娯楽施設が乏しい。② レクリエーションの機会が少ない。③ 他のクラブ員との接触が少ない。④ 参考資料が少ない。⑤ 種々の講習会が少ない。これらは主として離島や僻地の回答者によって指摘され，比較的文化施設や交通の便に恵まれた都市近郊の人々には見られない。そのような問題は余り感じられない訳か，都市近郊またはそこに近い所に住む人たちは，むしろ生産活動本位のクラブ活動を要望し，文化施設に恵まれ，かつ経済行為の活発な地域とそうでない僻地との対照的な考え方をもっている。それは全回答者の7%である。

では，これらの諸問題を改善するにはどうすればよいかということになるが，そのためにはバランスのとれた4-Hプログラムを企画し，実施することである。

4-Hクラブのプログラムを分類すると；① プロジェクト活動，② 補助活動，③ 一般活動の三つがある[15]。

①プロジェクト活動

プロジェクトは4-H活動の中心または生命であるといわれるように三つの活動の中でも，もっともウェイトの大きいものである。プロジェクトのテーマは自分の興味と能力に適合し，できるだけ家庭の職業や生活に関係するものを選ぶことが望ましいが，必ずしもそれにこだわる必要はない。そしてその結果の成否よりも，その課題を正しく企画，実践，分析，反省し，科学的な解決方法を習得することがもっとも大事である。アンケートの結果は沖縄における従来のプロジェクトは農業関係に片寄っているが，それについては項目を改めて考察することにする。

②補助活動

これはプロジェクト活動の充実をはかるためにとられる前後策で，調査，資料研究，討論会，見学，講習，実績発表，デモンストレーション，展示，審査，コンテスト，キャンプ，弁論大会，技術交換会，反省会などがある。

③ 一般活動

これは①②を除く一般的活動で，教養活動，レクリェーション，集会，社会奉仕，基金募集行事などがある。

4-Hクラブが自主的集団として多くの人々の参加の下に永続的に運営されるためには，"ためになる"，"たのしい"，"変化に富んだ" そして "バランス" のとれたプログラムを実施することである。また，部分的な説明ではあるが4-Hクラブの研究によると，永続的にクラブメンバーの関心を維持し，その協力を得るためには，集会の時間的比率はプロジェクト活動と他の一般的クラブ活動をもって五分五分のバランスにすることが望ましいとされている。—It has been found that the 4-H Club program that maintain the interest and cooperation of its members the longest period of time is usually the one in which club meeting time is divided about half and half between working on projects; and other club activities such as recreaticen, music group discussion, dramatics etc[9]。

2) 農業生産関係偏重のプロジェクト

アンケートの結果から従来琉球で行なわれてきた4-Hクラブのプロジェクトの種類を系統的にまとめると次のようなものがでてきた。——さとうきび，パインアップル，水稲，そさい，堆肥，病害虫，肉牛，豚，鶏その他。

これは現および元クラブ員を対象とした調査であるので，過去から現在のものまでが含まれている。過去のものはほとんどが元クラブ員の記憶によることと男子39人，女子が4人しか含まれていない

ことからすると，幾分他の種類のプロジェクトが加わることが考えられる。特に女子関係の被服，食物，住居などの項目が欠けているが，それは当然あったものとして想像できる。

いずれにせよ，日本本土や台湾もそうであるが，琉球の場合もプロジェクトは農業関係，その中でも特に生産面に片寄りすぎるきらいがある。

"The amount and kind of poject work undertaken by each member should depend upon the local situation, based upon the interest and the needs of the members of the group"[9]— すなわち，プロジェクトの数や種類は各メンバーの興味と必要に応じて，さらに地方の実情に適合したものから撰択することが大事である。しかし，農村だから農業関係のプロジェクトのみに集中する，また奨励することはさけるべきである。それは青少年をして融通のきかない片輪の人間に仕向けるのみならず，社会の変遷に敏感な彼等をして単調な農村生活からますます遠ざからしめる原因ともなりかねない。項目 1)でも述べたようにクラブの根本目的は農業従事者の育成ではなく，もっと広い視野における社会的リーダの育成である。作物の肥培管理や家畜の飼養管理のみならず，土壌保全を含む自然保護の学習もいいプロジェクトである。家庭生活をエンジョイするための庭園づくりや住居のデザイン，身心保護のための急救法と安全，機械と電気の扱い方，趣味を活かした写真術，発表力を養うリーダーシップなど個人の生長発達や家庭生活にとって大切なプロジェクトはいくらでもある。アメリカの 4-H クラブはその主旨をよく活かして，幅の広いプロジェクトが企画されている。ミシガン州の例をとると：弓術，自動車の管理と安全，肉牛，地方自治体の行政，育児，被服，自然保護，乳牛，電気，昆虫，家庭生活，普通作物，火災予防，急救法，庭園，食物，果樹，銃の管理，手工芸，室内デザイン，リーダーシップ，金銭管理，自己研修，写真，養鶏，養豚，トラクター，野性動物，その他[11] となっている。

琉球の基幹産業として農業関係のプロジェクトにウェイトを置くのも重要であるが，青少年男女が成人になった時に，義務と責任を果す上にも誰もが習得する必要のある科学的知識，技術と課題の解決法を訓練する選択の機会が豊富に与えられる必要がある。それは反面，楽しいそして魅力的なプログラムとして多くのメンバーの参加をまねき，永続的なクラブの維持に大きな力となる。

生産プロジェクトをして注意せねばならないことは生産プロジェクトといえどもその目的は学習であることを忘れてはならない。プロジェクトは成功するように努力せねばならないが，生産にこだわりすぎて，それが失敗したからといって挫折してはならない。特に資金融資を受けて経営する生産プロジェクトの場合は，その傾向が強くなるので，本人も指導者も留意すべき点である。

次に東京大学教育学部，宮原誠一教授の"農業の近代化と青年教育"によせられた文句を引用すると次の通りである。即ち"せまい技能的農業教育は，農民の手による農業近代化への道にそわないばかりでなく，そもそも青年を農業にとどめることにいちばん役立たないものである。それは青年を土地と家族からつれだして社会の空気にさらしながら経営や農法の技能だけを与えて，青年が社会にも農業にも人間的・主体的に透入していく力をあたえないから，青年は外かの誘いしだいでは惜しみなく農業と農村生活をすてていく，そういう状況をつくりだすだろう"[13]。これは 4-H クラブの運営方法にとっても意義深い警告である。

3) 4-H クラブ加入年令の高令化

4-H クラブに参加する青少年の年令的範囲は国によって多少の差はあるが，大体 2 つの型に分類することができる。その 1 つは 10 才から 20 才までとし，他は 15 才から 25 才までを範囲とするものである。前者はアメリカや東南アジアの多くの国々に見られ，後者は日本と琉球にみられるが，日本では特に 15 才から 19 才までを 4-H クラブと称し，20 才から 25 才までは青年農業クラブとして区別している。また，韓国では 10 才から 30 才までを範囲とし，その年令層の幅はどこの国よりももっとも大きい。(Table 4 参照)

10 才以上の 10 代を対象とする型は小学校の 5・6 年生から中校，高校，大学までの在学生および小，中，高校の卒業者（注：台湾や比国の義務教育は小学 6 年まで）が含まれる。15 才以上の型は主として中高校の卒業者を対象としている。

Table 4. The official 4-H Club ages in each country.

Countries	Japan[16]	Korea*	Ryukyu	Philippine[2]	Taiwan[24]	Thailand[2]	USA[20]
Ages	15-25	10-30	15-25	10-20	13-22	10-20	10-19

* Rural Youth Program of Korea pp. 1

Table 5. Ages of 4-H enrollment of individual members in the Ryukyus.

First enrolled ages	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
No. of persons	0	1	6	2	3	4	4	5	4	2	6	0	1

Table 6. The length of 4-H club membership and numbers by each enrolling ages in the Ryukyus.

Length \ *Enrolled ages*	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
1 *year*			1	1	1				2	1	3		
2					1			1					
3						1		2	1		1		2
4			1		2	1	1	1			1		
5			1		1	1	2	1		1	1		
6		1	1								1		
7				1			1		1				
8				1									
9			1			1							
10													
11				1									

Table 5 によると琉球における 4-H クラブ員の初めてクラブに加入する年令は 16 才から 27 才までの広範囲にわたっている。球琉では 25 才までをクラブ員の限度としているのに 27 才があるのは，特別のケースで，O. B. として参加している者である。

15才は中学校を卒業した年であるが，その年に加入した者は 1 人もなく，16 才で 1 人を記録する。17 才と 25 才はともに 6 人でどの年令よりも多い。また 20 才以上は 51% を占めている。残りの 12% は不明である。それからすると琉球の 4-H クラブ員の 50% 以上は 20 才以上の高年令に達してから初めてクラブに加入しているということになる。なお，これは悉皆調査の結果ではないので，全体の場合は多少の変化もありうることが予想される。

Table 7 は 1964 年の農業センサスから現に農業に従事している者の数をまとめたものであるが，それによると全琉球には 15 才から 24 才までの青少年男女の数は 9,322 人で，15 才から 19 才までと 20 才から 24 才までの年令層はほとんど同数である。そして女子は男子の約 47% しかいない。

日本では 15 才から 20 才までの年令層で組織されるものを俗に 4-H クラブとよび，場合によっては年少者クラブともよばれる。この年令層の特徴として家庭内における地位は補助労働の時代で，単に労力と部分的技術を提供する，いわゆる便利な働き手として使われる。社会的には背伸び時代で，高校へ行けなかったら，何か高校生なみに扱われたがる。また成人なみに扱われることも欲する。興味と欲求の中心となるものは安定的欲求で，仲間をつくりたがり，疎外から自分を守ろうと努力をする。経済的欲求は強く出ないが，何か新しい経験をしたがる時代である[5]。

女子の 15～18 才，男子の 17～19 才までを Middle Adolescence (青年中期)[9] とよび，普通この時代のクラブ員は篤志指導者の協力者として幹部リーダーに起用される。特に 10 才頃から 4-H クラブに加入している者が，長年月に培われたリーダーシップを発揮するのもこの頃である。そしてクラ

ブ活動の計画から執行，プロジェクトグループの指導，デモンストレーションの計画にいたるまで，一任できるまでに発達している。その反面，青年期は親を無視して自己を過大評価する時期でもあるので，独走をさけて密接な親子体制をつくりあげる必要があることを心理学は示している。

20 才以後から加入すると 4-H クラブの理念や基礎的訓練を習得する機会がそれだけ後れているために，クラブ活動への適応もおそくなる。すなわち，その時期が遅ければ遅いほど "readiness" に費やされる時間が余計に要る訳である。

前にも述べたように，15 才から 20 才頃までの年令層は仲間づくりと新しい経験を追求する年頃であり，4-H クラブに勧誘する絶好のチャンスである。

また，Table 6 によると一般的に加入者年令が若い程クラブ員としての定着期間が長い。これもクラブの維持にとって注目すべき重要な示唆である。

4) 4-H クラブの年令的範囲

3) でも述べたように琉球の 4-H クラブの年令の制限は原則として 15 才から 25 才までとなっている。これは部落単位でクラブを組織する場合，加入者が少ない時は好都合だが，クラブの運営上，種々の長短がある。

青少年を年令階級別に分類する一方法によって 15 才から 19 才までを初級グループ，20 才から 22 才までを中級グループ，23 才から 25 才を上級グループとよぶ[5]。各グループ層は家庭的，社会的地位によっても異なり，また興味や欲求も同一ではない。例えば家庭の農業経営についてみると初級グループは単なる補助労働時代であるが，中級，上級になると中堅労働時代，准経営見習い時代，あるいは総合技術提供時代へと強化されていく。また社会的地位の点からすると背伸び時代，成人到達時代，結婚適令時代と著しく変化している。興味としては初級においては仲間づくりが盛んである。そして上に進むにつれて各自の金もうけの欲求が芽生え，結婚，将来の家計を念頭に入れた実際的な経済的欲求が強くなるといわれている。

また，グループの性格として初級では基礎学習，仲よし集団的グループであるが，中級になると単一技術改良グループ，さらに上級になると，総合技術改良から部落問題解決準備グループとして行動を行ない，周囲からの認識が高まり，存在価値が増々高く評価されることになる。これまでの経験からして，クラブ活動の発展した村落ではそのような傾向が強い。例を東村有銘 4-H クラブにとると，同クラブは琉球でも屈指の優秀なクラブで同村の山地に最初にパイン栽培のプロジェクトを行ない，今日の村の基幹産業にまで発展せしめたのは実に同クラブであると，周囲の人々から高く評価されている。

次にこのような発展的過程にある古いクラブは種々な分野で高いレベルに到達しているために初心者や学校を卒業したばかりの者にとっては加入するのに無理がある。かりに加入したとしても先輩たちに歩調を合せていくことが困難となり，引込むケースが多いといわれている。このような難点を調整してクラブ活動をスムースに運営せしめるには年令層別による組織の方法が考えられる。それは 20 才を基準として二つの型のクラブに分ける。即ち日本で採用している型で，15 才から 20 才までの組織を普通の 4-H クラブとし，21 才から 25 才まで組織を青年農業クラブとよぶようにすればよい。この方式はアメリカでもよく見られる。なお，26 才を過ぎて引続き活動したい者は，プロジェクトリーダー，または篤志指導者として奉仕することが望ましい。

同年輩については，身心の発達度，興味，物の考え方などの共通点から組織が比較的簡単である。しかし，こんな集団は，同質性が強いために，独走的で行きづまりが早いケースが多いといわれているので，その点はクラブメンバーも指導者も十分留意すべきである。しかし，現実はそのような同質どころか，異質性のクラブの維持さえも困難な状態であるので幾分の年令差はあっても，幅の広い年令層でもって組織を構成し，異質性の強さを発揮せしめて，一つでも多くのクラブを育成することが急務と考えられる。

5) 女子のクラブ員の育成

男性による農業生産活動が第一次生産の場とすれば，それから得られる所得や生産物を合理的に管理して衣食住の改善を計ろうとする女性の生活改善活動は第二次生産の場といえよう。戦後，農業改良事業と並行して進められてきたこの生活改善事業は絶えず後進性をたどる農村の衣食住の改善はもとより，積極的に都会と農村との経済的格差の是正にも取組んで努力を払ってきた。また家庭および農村社会の民主化，婦人労働の軽減，婦人のリーダーシップの向上など幅広い範囲にわたって大きな成果をあげてきた。このように，女性の果す役割から考えて，4-H クラブへの女子の参加は大きな意義をもつものである。各 4-H クラブにおける女子メンバーの比率を求めるためのアンケートによると，43 人の回答者の中 14 人のクラブが男女だけ，20 人のクラブが男女混成，女子のみのものは 0，残り不明の結果がでた。5〜20 人の構成メンバーより成る男女混成クラブの中，ほとんどのクラブが 1〜2 人の女子しかおらず，3 人のケースは一つしかない。また，アンケートからはもれたが，歴史的背景の項でも述べたように唯一の女子オンリーの 4-H クラブが 1954 年に渡嘉敷村に組織され，1960 年頃まで異彩のクラブとして活動した。本土では青少年クラブの中に占める女子の割合は 20% から 15% である。その内訳をみると，20 才以下のクラブ員中では 23%，20 才以上では 12% となっている[16]。それからすると琉球と日本本土はほぼ同じ状態にあることがいえる。

Table 7. Number of youth engaging in only agriculture in the Ryukyus in 1964[19].

Ages	Male	Female	Total
15-19	3,442	1,389	4,831
20-24	2,906	1,585	4,491
Total	6,348	2,974	9,322

Table 7 によると 15 才から 24 才までの男子と女子の比率は男子の方が遙かに高く，女子はその半分弱 47% となっている。しかし，数字では表せないが，女子の場合，20 才から 25 才までの間には既婚者も含まれているので，4-H クラブ員の適格者はなお少なくなるものと予想しなければならない。女子クラブ員の参加比率が低い原因の一つはそこにもある。それにしても女子の比率は余りにも低い現実である。

Table 8. Comparation of 4-H enrollment with boys and girls in foreign countries.

	Japan ('57)[3]	Taiwan ('59)[24]	U. S. A ('61)[18]	Vietnam ('62)[2]
No. of boys	189,484	27,832	982,795	22,765
No. of girls	33,461	11,089	1,302,797	6,588
Total	222,945	38,921	2,285,592	29,353
F/M	0.17	0.40	1.33	0.29

Table 8 は諸外国における 4-H クラブの男女の比率であるが，どちらも女子の占める比率は沖縄や日本よりも高い。特にアメリカでは男子の 1.3 倍以上もあって注目すべき現象である。

クラブを構成する方法についてのアンケートの結果によると男女別々と混成の二つの意見があるが，女子の参加の必要性については全員がそれを認めている。43 人の回答者の中，16% は男女別々，37% は混成の各希望を示し，他にどちらがいいか知らないとなっている。このことについて 4-H クラブの研究の結果では，男女別々にする必要性は認められず，むしろ，混成にした方がすべての点で

好都合であるといわれている。それは世界各国の 4-H クラブがそうなっている事実からも明らかである。いわんや，農村の青少年男女の数が比較的少ない琉球では，その方が適当であろう。

次代を担う農村婦人の育成の見地から，女子の 4-H クラブへの参加は非常に重要である。

6) 4-H 普及員の設置

普及事業で青少年指導部門を担当する専任の普及員をアメリカでは "4-H Club Agent"，台湾では"四健会督導員" と呼んでいる。日本や琉球ではその制度がなく，従ってその名称もないので，他の普及員にちなんで 4-H 普及員とよぶことにする。

農業改良事業，生活改善事業，4-H クラブ事業をもって普及事業の三大分野と称するが，それは普及事業を営む世界の国々の共通の制度である。4-H クラブ事業がこのように大きくとり上げられるということは，農村の青少年の教育問題がいかに重大であるかを意味するものである。これは彼等の新鮮な頭脳，精神，手腕，および健康が普及活動を推進していく上に効果的なエネルギーとして，不可欠の存在であるからである。

琉球の普及事業も創設当初から 4-H クラブ事業を運営しているが，それは農業改良普及員と生活改善普及員の責任分野として分担され，専任の 4-H 普及員は設置されていない。

4-H 普及員の実際的な職務は原則として篤志指導者および 4-H 幹部リーダーの訓練とクラブ活動上の補佐である。しかし，それは同普及員が設置されている場合に適用されるのである。4-H クラブが数多く組織され，それに対する篤志指導者が適当に起用されていることを前提として 4-H 普及員の職務をもう少し具体的に述べると次の通りである。

①組織の運営方法と専門事項について訓練する。

②4-H クラブ事業について地方の人々の認識を高め，協力を求める。

③クラブを結成する会合に出席して指導助言を与える。

④4-H クラブのプログラムやプロジェクトの資料を提供する。

⑤クラブの事業計画について指導者に助言する。

⑥地区の 4-H クラブの事業の計画と執行に際し，委員会や指導者たちに協力する。

⑦中央の 4-H クラブ活動の情報をたえず地方の組織に伝達する[10]。

⑧必要に応じてプロジェクトの現場指導を行なう。

これらが 4-H 普及員の主な専門的な仕事であるが，たえず助言者の立場で活動する。その他に月報，年報，対人関係などの雑事があり，絶えず新しい知識・技術を習得するための自己研修もある。このように 4-H 普及員の職務はおろそかにできない程，広範囲である。農業改良普及員と生活改善普及員が，4-H クラブ事業までも分担することは負担過重である。特に日本本土も同様，琉球においても農民の資質の向上とともに農業の専門化や家庭生活の向上による変化が目立ち，普及員は困難な試練に立たされている。そのために従来の総合的指導から専門化の傾向にさえ移りつゝある。普及員が専門的に深く研究して知識，技術を高めることによって普及事業はよりよい効果を上げることはいうまでもない。4-H 普及員と同様に他の分野の普及員も多元的な責任分野がある。このような多忙で，しかも専門化の傾向にある普及員に 4-H クラブの指導の責任まで負わすことは双方にとって好ましくない。

台湾をはじめ，東南アジアの諸国やアメリカでは成人と同様に青少年の教育を推進するために，専任の 4-H 普及員制度を設けている。そしてほとんどの普及所には 1～2 人の 4-H 普及員が配置されている。こゝに実例として筆者の体験を記すと：1959 年 8 月現在，Michigan 州 Macomb 郡の普及所には男女各一人の 4-H 普及員が配置されていた。郡政府の 4-H クラブに対する深い認識と豊かな財政力によって自己財源による更に新たな 4-H 普及員を採用する計画があった。また，台湾では 4-H クラブ員が 400 人をオーバーすると 4-H 普及員を 2 人配置する[24] 程の熱の入れ方である。アメリカでも都合により 4-H 普及員が配置されていない普及所が稀にあるが，その場合農業改良普及員と生活改善普及員の職務時間の 1/3 は 4-H クラブの指導に当てられている[9]。

4-H 普及員の制度を採用している国に限り莫大なクラブ員を抱え，活発なクラブ活動を行なってい

る事実から，その専任制度は青少年の教育にとって重要な条件である。沖縄の4-Hクラブの低調はその制度の欠如が大きな原因の一つであると考えられる。人づくり運動の一環としてぜひ実現させたいものである。

7) 4-Hクラブの教材の欠乏

プロジェクトは4-Hクラブの中心，または生命といわれる程に重要な位置を占め，クラブ員は誰もが履行せねばならない課程である。学校教育で教科書が不可欠のものであるように4-Hクラブでもまた同じである。それに匹敵するのがプロジェクト本である。

琉球の場合，アンケートによると，政府から発行された記録簿やしおりは殆んど全員に配布されているが，プロジェクト本については誰も知っていない。主管の農業改良課で調べた結果によると，特別に4-Hプロジェクト本としての出版物はないが，専門的な単行本と遂次刊行物として雑誌が発行されている。4-Hクラブ員は優先的にそれぞれ配布を受けるようになっている。しかし，この単行本や雑誌は農業や家政に従事する一般の成人を対象として編集されたもので，本来のプロジェクト本とは主旨が異っている。プロジェクト本は青少年をしてプロジェクトの実施過程において科学的に課題を解決する訓練を目標とし，同じ題目のプロジェクトでも，クラブ員の学習経験の程度によってその内容にも差がある。

次に，回答者の殆んどが読物の不自由を訴えている。これは農村における経済的な理由や読みたい時には何時でも何処でも自由に入手するのが困難な農村，または僻地の地理的，社会的環境から生ずるものと考えられる。農村では農家向きの技術的雑誌の普及率は非常に低い。地域によって多少の差はあるが"家の光"が主で，園芸や養鶏関係が2，3点である[8]。それからすると公民館を中心とした農民文庫の設置も大いに必要である。

このように青少年の科学的訓練と農村の貧困性や立地条件から生ずる不便を補う見地からも，プロジェクト本の作成，配布は重要である。

8) 小中学生の4-Hクラブ参加

4-Hクラブにおける年少者とは普通10才から19才までの年令層のクラブ員をいう。15才から19才までについては3)でとり上げたので，こゝでは主として10才から14才までの年令層について考察することにする。

年少者4-Hクラブは小学校の5・6年生とその卒業生（国によっては小学校6年を義務教育年限とするところもある）および中学生を構成員として組織される。そのリーダーは主に地方の篤志指導者であるが学校を根拠として組織する場合は，学校4-Hと呼ばれ，そのリーダーは学内の篤志の先生が担当する。

Table 4に示されているように，台湾，韓国，フィリッピン，タイランド，アメリカなどの諸国が4-Hクラブのメンバーに学童を参加させている。アメリカでは学校と密接に連係して組織した州もあるが，それとは関係なしに全く村落の事業として設置したところもある[6]。現在日本の4-Hクラブは15才から20才までとなっているが，東京教育大学助教授・富田竹三郎氏の調査によると1949年現在，10才のメンバーを含むクラブが埼玉県に組織されている。それによるとこのような10代の4-Hクラブが64あったといわれている[26]。琉球では普及事業の創設以来このような学童を含めたクラブは組織されたことがない。

10代の年令層といえば小学校の5・6年生から中学生まで含まれるので，学校のカリキュラムへの影響を考慮に入れなければならない。もちろん，4-Hクラブは純然たる課外活動である。

4-Hクラブの名称を初めて付けた人は歴史的にも不明であるが，ソクラテスの活動の原理の3-H，即ちHead，Heart，HandsにアメリカでHealthを加えて，4-Hにしたといわれている。これは青少年男女が頭脳，精神，腕，健康を合理的に組合わせて訓練を行ない，自らを磨くとともに，たがいに力を合わせてよりよい村，よりよい国を築き上げるのに貢献するというのが信条である。そしてその学習法はデューイの"Learning by doing"即ち実行することによって学ぶという実践学習を基本

としている。近年，学校教育でもそれが重視され，校外教育（普及事業）におけるその学習法の結果はカリキュラムを補強するものとして高く評価されるに至った。それは最も古い普及事業の歴史をもつアメリカの 4-H クラブが，学校教育と結びついて限りない発展を続け，国内における最大の青少年クラブに成長しているのがなによりの証拠である。また東南アジアの諸国が，自国の農村改革のためにその制度をとり入れて青少年教育に懸命である事実からもうかがえる。

また，児童，青少年の教育には学校のみならず，社会的な指導が必要である[25]。4-H クラブの活動の中心であるプロジェクトは，自己の興味と地方（地域社会）の実情に適切なものを原則として選択するので，その活動は絶えず社会と結びついている。一般活動として社会的のプログラムが豊富にある。これらのクラブ活動を通じて，青少年は広い分野の社会的経験をもつことになる。さらに 4-H クラブは自主的な集団であるので，あらゆる活動が自主的に企画および執行されるので，幼少の頃から企画性に富んだ自主的気性が養成される。

また，主として職業教育に対する学校教育のあり方についてであるが――これまでの学校教育は農村社会の済経的，社会的側面からの教育事象のつかみ方が浅薄であったために教育が農村社会のものとならなかった……。自ら農村を愛し，自ら農村を育てていこうとする考えの基盤は幼年期から築かれねばならない……[25] と社会教育と幼年期からの訓練の必要性が強調されている。

このように学童，または幼年期の少年たちを 4-H クラブに参加せしめることは，普及事業のエネルギー源のみならず学校教育のカリキュラムの強化にも役立ち，自ら農村を愛し，農村を育てていく指導者を育成することになる。

9) 農村青少年訓練施設の欠知

最後に，農村青少年訓練施設をとりあげたのは，施設そのものの重要性はもちろんであるが，アンケートの要望欄には殆んど全員が異口同音に同じ主旨の施設の設置を訴えている。

従来，琉球には純然たる農村青少年の技術的訓練を目的とした公式の施設がなく，それは農業試験場や畜産試験場に委託されてきた。

日本本土では，1960 年 10 月 1 日，農林省によって発表された農業伝習施設に関する要綱に基づいて，全国 55 ケ所に経営伝習農場が設置された。同農場の内部には青少年研修館と農業近代化施設が併置され，県によっては農業高校とは比較にならぬ程のスケールと予算規模で施設が拡充されている[13]。これは当時の既成の農業高校の卒業者の就農率の低下，農業人口補充率が 20% 前後という危機的な農業後継者問題が生んだ結果であると考えられる。つまり次代の農業経営担当者としての人材の確保という必要性から生じたものである。

こゝにその「農業伝習施設に関する要綱」の一部を掲載すると次の通りである。

第 I 目 的

農業伝習施設は，農業改良助長法の規定に基づく協同農業普及事業の一環として，農村青少年活動の中核として農業および農民生活の改善を推進する農民の育成を行なうことを目的とし，あわせて合理的農法の実践展示により，広く一般農民の指導に資するものとする。

第 II 設置および名称

1. 農業伝習施設は，都道府県がこれを設置するものとする。
2. 都道府県は農業伝習施設を設置するときは，原則として，「○○県（都，道，府）立経営伝習農場」の名称を用いるものとする。

第 III 農民の育成

1. 教育の内容および方法

農村青少年活動の中核として農業および農民生活の改善を推進するに必要な農業および農民生活の改善を推進するに必要な農業および農民生活に関する知識。技術および教育を生産実習に重点をおいた学習と全寮制による共同生活を通して修得させるものとする。

2. 課　程

農業経営伝習施設に本科および研究科の二課程をおくものとし，本課は，原則として男子部および女子部に分けるものとする。

3. 入場資格および修業年限

(1) 本　科　入場資格は，中学校卒業者とし，その修業年限は原則として2年とする。

(2) 研究科　入場資格は本科卒業者ならびに高等学校卒業者およびこれと同等の能力があると県（都，道，府）知事が認定した者とし，その修業年限は，1年とする。

4. 農業伝習施設においては，以上の他農村の青少年に対して，農業および農民生活に関する実用的な知識および技術を与えるため，短期間の研修を行なう[13]。以下第IV，実践展示まで省略する。

この要綱が発表されて二年後の1962年4月，「経営研修施設近代化要綱」が発表され，事業は一段と充実されるに至った。その施設の内容は各県の実情に応じて特色をもたし，特に畑作栽培機械化施設，酪農，養豚，養鶏施設，果樹園芸施設などの成長部門に重点がおかれている。

次にこの施設の運営上の特色と考えられるのは，"生徒自らこの経営に参画実践し，生産の単位としての収支を明確にし，新らしい農業経営に対する自信を与え，将来の農業に希望と夢をはぐくませること"[13]の項目である。即ち，単なる知識，技術の向上のみならず，また研修生が受動的に引きずられるということでもなく，研修生を自発的に経営に参画させ，彼等の理性に働きかけてリーダーシップを育成しようとする努力である。

この施設の研修生は，知事による公式の認定によって入場が許可され，1年～3年間にわたって培われた知識と技術は県内における農業の近代化のパイロットとして活用されることが期待されている。このような充実したパイロットは4-Hクラブの育成にとって最も必要とされる人的資源であり，また，同施設そのものは，4-Hクラブ員たちにとってはクラブ派動で習得された知識技術をさらに強化するための夢でもある。

農村青少年訓練施設の設置こそは琉球の農政に期待される大きな課題の一つである。

2. 社会的因子の考察

1) 篤志指導者（Volunteer leader or Local leader）の欠如

篤志指導者とは無報酬で自発的に普及事業に協力し，青少年や隣人を指導する人をいう。篇志指導者は普及事業の計画や執行に助言と協力をするのみならず，農研クラブ，生改グループ，4-Hクラブの各組織の育成，指導にとっても不可欠の要素である。普及事業にとって篇志指導者はそれ自体が目的であり，また手段である[6]。なぜならば――普及事業の根本的な目的は人々の指導者性の発達であり[3]，普及職員は普及事業の過程において発見され，訓練された篇志指導者の協力によって社会に効果的な教育と奉仕をもたらすことができるからである。また篇志指導者の起用は4-Hクラブ事業の特徴である。――Club work is distinguished by the fact that it works primarily through clubs and utilizes volunteer local leaders[6]。即ち篇志指導者の起用によって，①普及員の指導時間の量が倍加され，②クラブの組織を拠点として活動するので限られた時間に多くの青少年の指導ができ，③篇志指導者はその地域やクラブ員の家庭の実情に最も祥しい人であるので，より適切なプロジェクトや一般クラブ活動が期待できるわけである。

篇志指導者の問題点についてのアンケートをしたらその結果は系統的に二つに分けられた。その一つは指導者のなりてが少ないということ，他は指導者の訓練の心要性であった。

(1) 篇志指導者のなりてについて

アンケートの結果，43人の中，同指導者をもったことのある者は22人でその他はもったことがない。(Table 9 参照)

その中には自発的に名乗り出た指導者もいるが，それは非常に稀なケースで殆んどが懇願されてや

Table 9. Vocational classification of local leaders and number of the answers of each respective field.

Vocation or status	Number of answers
Chief of ag. study club	5
Village official	5
Progressive farmer	4
School teacher	3
Ag. coop. staff	2
Pres. of P T A	1
Community chief	1
Ag. exp. technician.	1
Total	22

っと引受けるのが普通となっている。また，数年間も継続的に活躍する指導者もいるが，大方は1年またはそれ以内の一回限りで辞退するケースが多いようである。場合によっては有名無実になることもある。

(2) 篤志指導者の特別訓練の必要性について

篤志指導者に対する要望や意見については次の事柄が指摘されているが，それは同指導者の訓練に関する問題である。

①プロジェクトの専問的な事項については詳しいが，その計画のたて方や観察の方法の指導力に欠けている。

②クラブ活動の総合的な計画について十分助言できない。

③一般的に技術偏重で，教養的な分野の指導にも力を入れてもらいたい。

④デモンストレーションの方法についてあまり詳しくない。

これから (1) と (2) について総合的に考察することにする。

篤志指導者と 4-H クラブ員との関係は，まず指導者が自発的に名乗り出て，周囲の青少年男女によびかけてクラブを組織するのが普及事業の期待する本来のあり方である。しかし，アンケートの結果ではその例は1件も見られず，普及員によるよびかけが圧倒的に多く，クラブ員自体によるのが少数ある。この事実は筆者が見聞した限り，琉球のみでなく諸外国における傾向でもある。Table 9 によると農研クラブ長，村吏，先進農家が最も多く，次いで学校の先生，農協の職員，PTA 会長，区長，農試技官などが起用されている。職業的にも適当な人物が起用されている。こゝで注意せねばならないことは指導者はあくまでも個人的な資格であるので，人物を評価するような格式にこだわってはならない。村落には老若男女を問わず，可能性のある指導者は無数に存在するからである。また，指導者は育成すべきものである。既成の指導者より，訓練された素人が秀れた効果を発揮することはよくある例である。主務課の話によると指導者を獲得することは絶えず悩みのタネで，最近は殆んど農研クラブ長が肩代りしているケースが多いとの事である。そうなると農研クラブ長は自分のクラブの指導もかねて負担過重となる。職責的代行は双方にとってあまりいい効果を期待できないので極力専任の指導者を置くことが望ましい。

次は指導者の起用を断る理由として，忙しい，4-H クラブについて知らない。指導力に自信がないなどが上げられているが，これらは妥当的な理由にならない。指導者の資格は必ずしも知的，技術的に秀れた知名人ではなく，青少年の教育に対して深い関心をもち，周囲の人々からも尊敬を受けている男女の成人である[23] とされている。4-H クラブ活動について最初から十分な指導力を備えた既成の指導者は簡単には得られない。普及事業の根本的な目的に基づいて人々の指導者性はつくり上げる

べき性質のものである。これは②の問題と組合わせて考えるとよい。②で指摘されている問題点はこれまでに起用された指導者のクラブに対する熱意とは殆んど関係がないといってよい。それは指導機関による訓練の欠如か生ずるものである。学校の先生が児童生徒を指導するには上級学校に進んで，必要な知識と技術を習得する必要があるように，普及事業の指導者にとってもその点は同一である。

では，指導者の訓練の責任はどこにあるかというと，それは原則として普及員と専門技術員である。4-H 普及員の制度がない沖縄の現状では，一般普及員にとってそれは負担かも知れないが，4-H クラブ事業の課題である。主務課と協同して地区的，または中央的に行なう方法をとれば効果的に解決できる問題である。

篤志指導者にとって最も必要とされる訓練事項には次のようなものがある。

A 普及事業の組織，歴史，理念，目的
B 青少年の欲求の理解
C 4-H クラブの事業計画のたて方
D 青少年男女の指導法
E 集会のもち方
F プロジェクトの計画と実行
G 特別4-Hクラブ活動
H 農業と家政の専門事項

また，L. K. Sabrosky (Extension analyst) 氏は研究の結果，指導者の訓練の重要性について次のように結論づけている。即ち——

A 数年の指導経験者は一年の者よりも実績が高い。
B 適当な訓練を受けた指導者はそうでない者よりも長く4-Hクラブに定着する。
C 問題をもっている指導者ほど，訓練を要望する。
D 講習会に出席する者ほど実績が高い[18]。

篤志指導者の数は4-Hクラブに対する社会の関心の尺度といわれるが，因に諸外国の状況をみてみよう。

Table 10. Comparison of number of 4-H Clubs, members and local leaders with the Ryukyus and foreign countriəs.

1. Countries	Japan ('57)[8]	Korea ('61)[2]	Ryukyu ('66)*	Taiwan ('59)[24]
2. No. of 4-H Clubs	15,777	10,025	17	
3. No. of 4-H members	222,945	302,110	94	38,921
4. No. of local leaders	19,826	20,110	17	3,343
4/2	1.3	2.0	1.0	
1. Countries	U. S. A ('61)[20]	Vietnam ('62)[2]		
2. No. of 4-H Clubs	95,000	519		
3. No. of 4-H members	2,330,000	29,353		
4. No. of local leaders	423.000	1,233		
4/2	4.5	2.4		

* 農業改良課資料より

Table 10 によるとクラブの数に応じて指導者数が最も多いのはアメリカの4.5人である。それは理想的指導者組織として Organization lcadcr (クラブ専属の指導者)，project leader (プロジェクトの専門的指導)，informal leader[18] (臨時的指導者) の三つの型の指導者を起用している結果と考えられる。それに次いで台湾，ベトナム，韓国なども充実している。琉球は農業改良課の資料によるも

のであるが，最も低い。指導者難による農研クラブ長の名義上の代行を考慮に入れると，実質的な数はもっと下落するものと考えられる。

篤志指導者の育成こそは 4-H クラブの発達と人々のリーダーシップの向上を約束するものである。

3) 親の関心が低い

4-H クラブに対する親の関心についてのアンケートの結果によると： 43 人の回答者の中，①関心がある——8 人 ②関心があまりない——22 人 ③関心が全くない——2 人 ④回答無し——11 人となっている。

この結果からすると，4-H クラブに対して関心をもっている親は約 19% で関心は余りないものが約 50% を占めてもっとも高い。質問の性質から無答は無関心に近いものとみて，約 80% の親がそれに対して余り関心をもっていないことになる。

4-H クラブに対する親の協力はクラブ員の基本的必要条件を備えてやるということで重要である。親の関心や助言はプロジェクトを順調に完成せしめるのみならず，すべてのクラブ活動に対する興味やプロジェクトの完成に対する賞賛はクラブ員にとって必要な威信を与えるものである。一般的に耕作プロジェクトを実施しようにも十分な土地がない，プロジェクト資金を工面するにも困難を伴う農家の現実から，親の協力と関心は絶対に必要である。また，某 4-H クラブのように 85% 以上が 24 才以上のクラブ員によって占められている場合，親子間の信頼と協力が成立してはじめてクラブ活動も順調に行なわれるのは全クラブ員が認めている。何故ならば，その年令層に達すると，一家の労働力の中堅であり，プロジェクト活動は家庭生活に直接，間接に影響するからである。またプロジェクトはできるだけ，家庭，地方の実情に適したものから選択することが望ましいので，家庭を無視することはできない。プロジェクトと同様に集会もクラブ員の家庭を持ち廻りで行なうなど，クラブ活動の根拠は家庭である。

親の果す役割は家庭内における単なる協力のみではない。自分の子弟ばかりでなく，周囲の青少年の指導者として奉仕することも期待される。それが篤志指導者である。更に 4-H クラブ，または普及事業の委員として対外的に働くことも成人に課された責任の一つである。普通，外国におけるこのような役員はクラブ員の親が起用されている。

親の協力は 4-H クラブの育成にとって不可欠の要素であるが，どのようにして親の関心を起こし，その協力を得ることができるかについて，アメトカ農務省の研究結果では次のようになっている。即ち，

① クラブの集会をできるだけクラブ員の家で開くこと。
② 社会的な特別活動に親も参加させること。
③ 必要に応じて親も集会に案内すること。
④ 篤志指導者は少なくとも年に 1 回はクラブ員の親を訪問すること。
⑤ クラブ員同志が揃って相互の家を訪問すること。
⑥ クラブの組織を通して親同志間の親睦をはかること。
⑦ 親に 4-H クラブの目的とプロジェクトについて理解せしめること。
⑧ 親の協力に対して感謝の意を表わすこと。

これらを要約すると： Informing Parents＋Asking Parents＝Parent's Cooperation となる[27]。即ち親に報らせ，親に相談することは親の協力を得るということである。

青年期は自信過剰になり，よく親を無視して独走的になりがちであるので親子の対立がよくそこから生じやすいといわれている。そのトラブルをさけて両者の関係をスムースに作用させるのに最も効果があるのは篤志指導者の役割である。

4-H クラブの活動について絶えず親に報らせ，また，親をクラブの篤志指導者に起用すべく積極的な努力が必要である。

4) 4-H クラブの組織の拡張

Table 11. Distribution of 4-H clubs as a unit of township from 1950 to 1967 in the Ryukyus*

Districts	Northern	Central	Southern	Miyako	Yaeyama	Total
No. of total township	17	14	19	6	3	59
No. of township which had 4-H clubs ever	7	3	6	5	2	23
%	41	21	32	83	67	39

* 手登根順輝氏（元農業改良課普及係長）の資料より

まず，琉球に4-Hクラブが創設された1950年から現在（1967年）までにどれだけの地理的範囲にわたってそれが組織されてきたかをみてみよう。

Table 11は地方自治体を単位として4-Hクラブの数に関係なしに，上述の期間内にかってそれが組織されたことがあるかどうかを調査した結果である。それによると全琉の59市町村のうち，23市町村（39%）に過去か現在に幾つかの4-Hクラブが組織されている。それを地区別にみると宮古は6市町村の中，5市町村（83%）で最高をランクし，八重山がそれに次ぐ。最低は中部地区で14の市町村の中，3市町村（21%）しかもっていない。また先島と本島を比較すると77%：32%で先島の方が2倍以上も高い。先島の優位性はTable 12にも見られるように現時点でも保たれている。さらにそれを沖縄本島のみについてみると，北部地区が上位で南部，中部と次いでいる。軍施設のある中部と商工都市の那覇に隣接する南部地区が全沖縄でも最も下位にあるのは興味深い事実である。

次に現在（1966年8月）の全琉における活動中のクラブの4-H分布をみてみよう。

Table 12の示すように全琉の4-Hクラブの総数は17で，依然として先島がトップではあるが，市町村単位にすると宮古は3市町村に減少している。また，中部地区は全部消失して0となり，南部

Table 12. Acting 4-H clubs in the Ryukyus as of Aug. 1966.*

Districts	Township	Name of club	No. of member	Establishment
North	Kushi	Wakatake	4	June, 1963
〃	Higshi	Arime	7	
South	Tamashiro	Toyama	4	April, 1957
Miyako	Ueno	Shinzato	8	1963
〃	Shimoji	Shinno	13	1958
〃	〃	Heiwa	4	1965
〃	Taira	Narikawa	8	1965
〃	〃	Miyazumi	6	1959
Yaeyama	Ishigaki	Ibaruma	4	1965
〃	〃	Okawa-midori	7	1960
〃	〃	Shiraho-daiichi	3	1961
〃	〃	Mino	4	1961
〃	〃	Kaneshiro	4	1961
〃	〃	Yoshihara	6	1955
〃	〃	Yonehara	4	1956
〃	〃	Itona	4	1959
〃	Taketomi	Hateruma	4	1963
4	8	17	94	

* 農業改良課資料より

地区は1村にしか残っていない。

4-H クラブは完全な自主的集団であるので網羅的に組織することは好ましくない。しかし，59市町村の中，8 市町村にしか組織されていないという現実は次代の後継者の育成および幾多の大きな改革を迫られている琉球の農業にとって意義深い警告である。

4-H クラブの重要性についてはこれまでに度々論じてきたので，こゝでは組織のない所にいかにしてそれを育成するか，その方法や考え方について述べることにする。

まず，4-H クラブの構成人員は原則として最少5人の青少年男女である。それだけの人員はどこの市町村にも存在することは 1964 の農業センサスでも明らかである。また，殆んどの部落で確保できることは常識的にも考えられる。それからすると組織の可能性は十分あるとみてよいだろう。自主性は強制を否定しても決して勧誘に反対するものではない。人員は十分あっても参加希望者が足りなければ，教育的に勧誘する努力こそ必要である。また，指導者によくありがちなことであるが，"粒揃い" とか "安定性" にあまりこだわりすぎることである。それはクラブの永続性にも関係するので，その線にそう事も結構だが，それを重視のあまり組織ができないとなるとかえって逆効果である。揃わない粒を揃えるのが，普及事業の理念を活かしたことになる。

人員の都合でどうしても部落単位に組織できない場合は村単位，あるいは地区単位にすることも可能である。それがいわゆる "広域性" の組織である。交通機関やマスコミが発達した今日，決して不可能なことではない。クラブが皆無の市町村が多い。また皆無の地区さえある今日の実情からして，この広域性こそは最も効果的な方法であると考えられる。その個々のメンバーのパイロット的役割によって周囲に波及し，新らしいクラブの誕生の可能性が期待できる。さらに広域性のもたらす効果として，農村にありがちな封建的なセクショナリズムの改善や，知識，技術の交流による対人関係の促進が期待される。なお，どうしてもクラブの定員に達しない場合は，4-H 員として参加させる事もいい方法である。

4-H クラブの組織拡張は普及事業のエネルギーと組織の強化を意味するもので，少なくともパイロット的メンバー，あるいはクラブの設置は全市町村に与えられた課題である。

5) 4-H クラブ委員会 (4-H Club Committee)

琉球の普及事業または 4-H クラブの運営にあたって必要で存在しないものの一つは 4-H クラブ委員会（以下 4-H 委員会という）である。

普及事業関係の委員会の目的は普及事業の運営に当り，広く農民の自主的な意向を反映し，事業の運営が官僚的に陥らないように監督し，またそれに必要なリーダーシップと物質的援助を与えてスムースな活動を行なわしめることである。

同委員会の種類として普及委員会，農業委員会，生活改善委員会，普及計画委員会，4-H 委員会などがあるが，国によって名称や種類の数に多少の差がある。4-H 委員会については独立した組織をもった国（例：アメリカ）もあれば普及委員会によって代行される所（例：台湾）もある。さらに組織のレベルによっても差があって，台湾では字，村，県，省[24]，韓国では村，郡，道[1]，アメリカでは郡，州，連邦[6] の各行政レベルにそれがある。

4-H 委員会の構成メンバーは (1)：篤志指導者のみ，(2)：篤志指導者と 4-H クラブ代表との混成，(3)：(1) と (2) に更に農業および実業関係団体代表の混成など，大体この三つの型がある。

普及員と委員会の関係は "The good county agent works hehind a committee"[7] といわれるように主体は委員会である。これは普及事業の理念に基づいて，人々の自主性と指導者性を委員会の活動の過程において実現，強化せしめようとするものである。

4-H 委員会の主な役割は縦の連係の調和をはかりながら，担当レベルの総合的な 4-H 活動に対して指導助言をすることである。その実際的なものを列挙すると次のようなものがある。

①4-H クラブが直面している問題点を究明し，その解決方法について社会の人々の物心両面の協力を求め，指導者に協力する。

②普及計画に助言する。
③4-H クラブの功労者を表彰する。
④篤志指導者の獲得に協力する。
⑤4-H クラブについて宣伝し，一般の人々の認識を高める。

6)　4-H クラブ財団の設立

4-H クラブ財団（以下 4-H 財団とよぶ）は青少年教育に深い関心をもち，公共心の高い篤志家たちによって組織される。それは政府の普及事業に協力して，民間の立場から 4-H クラブを育成する目的をもつものである。

4-H 財団の資金は主として個人および実業団体の寄付によって供給される[12]。自主性の確立と人事権の排除などの点から政府の援助は普通受入れていない。

4-H 財団はこの浄財によって巾広い教育事業を行なう。例えば日本の 4-H 協会は弘報事業，活動促進事業，国際関係事業，褒賞事業，助成事業などの大項目の下に種々な活動を行なう[14]。また，アメリカのミシガン州 4-H 財団では 4-H クラブの訓練センターの設立，都市 4-H 普及員の雇用，国際農村青年の交換，職業訓練，都市と農村生活およびレクリエーションの技術交換その他の事業が行なわれ[12]，韓国ではプロジェクト銀行を経営して 4-H クラブ員への間接的な融資と家畜の普及を目的とした事業が行なわれている[1]。

現在，琉球における 4-H クラブの中央的事業として年1回の技術交換会，実績発表会，日本の全国的大会への代表派遣などがあるが，殆んど政府の貧弱な財政によって運営されるために，多くの 4-H クラブ員が等しくその機会を得ることは困難である。4-H 財団が設立されることによって，これらの事業が強化されるばかりでなく，4-H 教材，プロジェクト資金の融通，篤志指導者の訓練，地方的 4-H 活動への助成など，目下直面している諸問題の解決に大いに役立つことであろう。また，重要な教育的要因となっている 4-H 普及員を自己貯源で雇用する可能性も期待される。それは特殊事情による国家的業務までも遂行せねばならない政府にとっては重要な協力者である。

およそ農業が存在する限り，その周囲には直接，あるいは間接に農業を対象とする種々な実業団体がある。例えば琉球の場合，製糖会社，パイン加工会社，肥料会社，飼料会社，農薬会社，畜産加工会社，農業協同組合連合会，煙草会社などが直接農業を対象として成立している。また，銀行，マスコミ会社，電気および機械関係会社，食糧関係会社など無数の間接関係団体がある。これらのすべての団体は同財団設立と運営にとって立派な協力者の対象である。近年，主として都市地区を中心として篤志的な個人および実業団体の協力によって，ボーイスカウトやガールスカウトの活動が盛んである。これらも人づくり，社会的奉仕の目的をもつ自主的集団という点において 4-H クラブと全く共通である。それなのに，都市地区のものは栄え，農村のものは低調になるとは不合理である。琉球の 4-H クラブは経済的にも大きな壁に突き当っている。それを解決する方法は 4-H 財団以外に考えられない。政府と民間の関係指導者が一体となって働きかければ，その設立は決して不可能ではなかろう。4-H 財団の設立こそは農村青少年教育に与えられた最も重要な課題の一つである。

V　摘　　要

1. この研究は琉球の 4-H クラブの低調に影響を及ぼしている重要な教育的因子と社会的因子を究明することが主な目的である。
2. この研究は主として 43 人の全琉球の代表的な現および元 4-H クラブ員を対象として行なわれたアンケートの結果にもとづいている。
3. この研究の調査期間は 1966 年7月から 1968 年6月までである。
4. 次の9事項が重要な教育的因子として究明された。

1) 4-H クラブのプログラムがプロジュクトに偏重して単調である。

プロジェクトは 4-H 活動の中心ではあるが，プログラムは次代を担う公民育成の見地から総合的な幅の広いものにすべきである。そのためには，補助活動，一般活動を加えてバランスのとれたプログラムを樹立する必要がある。

2) プロジェクトが農業の生産関係に偏重している。プロジェクトの目的は生産ではなく，課題を解決する科学的態度の訓練である。

プロジェクトの数や種類は各メンバーの興味と必要に応じ，さらに家庭や地域社会の実情に適合したものを選択することが望ましいが，それの選択の機会を豊富に与える必要がある。

3) 4-H クラブに加入する年令が一般的に高い。43 人の調査対象の中，50% 以上が 20 才過ぎてから加入している。学習効果とクラブへの定着性の観点から，中学校を卒業した時点で，勧誘に努力すべきである。

4) 4-H クラブの年令的範囲が広い。そのために新入者が歩調を合わすのに困難をきたし，中退するケースがある。その改善策として 15 才から 20 才までを普通の 4-H クラブ員とし，21 才から 25 才までを青年農業クラブ員として別々に組織すると効果的である。

5) 女子の 4-H クラブ員が非常に少ない。普通，クラブ員総数の 20% 以下である。

琉球における家族主義農業と家庭および社会生活における女性の果す役割の重要性から女子クラブ員の増加は積極的に推進される必要がある。

6) 4-H 普及員の制度がない。4-H クラブの育成は農業改良事業，生活改善事業と並行した普及事業の三大分野の一つである。現在それは農業改良普及員と生活改善普及員によって分担されているが，専任の 4-H 普及員を設置することが望ましい。

7) 4-H クラブの教材，特にプロジェクト本の欠乏のために，プロジエクト活動に支障をきたしている。

プロジェクト本は必要な分野からできるだけ多くの種類を設け，プロジェクトの過程に応じて希望者が何時でも得られるように準備しておく必要がある。

8) 琉球では小中学生は 4-H クラブに加入していない。4-H クラブの実践学習による学校教育のカリキュラム活動，社会的経験，農村生活の重要性の理解の強化などの点から，小学校 5・6 年生および中学生を自主的にクラブに参加せしめることは非常に重要である。世界の多くの国々がその制度をとっている。

9) 農村青少年の技術およびリーダーシップの訓練を目的とした公式の施設がない。日本本土では農林相の農業伝習施設に関する要綱に基づいて，都道府県の機関として農業経営伝習場が全国的に設置されている。それは農業技術のみならず，団体生活を通してリーダーシップの訓練を兼ねた総合的機能をもっている。この訓練生は 4-H クラブや農村社会のパイロットとして期待される人的資源である。

5. 次の 5 つの事項が重要な社会的因子として究明された。

1) 篤志指導者が欠乏している。それは一般の成人が 4-H クラブをよく理解していないということと，篤志指導者の資質を向上せしめるための訓練が行なわれていないということが主な原因である。その訓練の責任は原則として普及員にある。普及所と主務課が協力して，地区的，または中央的指導者訓練を実施する必要がある。

篤志指導者は普及事業にとってそれ自体が目的であり，また手段である。

2) 親の関心が薄い。4-H クラブ員の基礎的必要条件を満たすために親の協力は絶対に必要である。特に耕地面積が小さい上に，青少年の労働力がウエイトをしめている琉球の農家にとっては，4-H クラブ活動は直接に生活に影響を及ぼすので，親子の理解は前提条件である。親子の関係をスムースに作用せしめるのに篤志指導者の役割は効果的である。

3) 4-H クラブの組織が特定の地域に片寄っている。1966 年現在，総数 59 市町村の中，8 市町村

だけに片寄り，他の市町村，または他地区に誕生しない。そのような現状でクラブ組織を拡張するのにもっとも効果的な方法は広域性のクラブを組織して，全市町村にパイロット的クラブ員を設置することである。

4) 4-H クラブ委員会の制度がない。社会の人々に宣伝して4-H クラブの理解と協力を計り，クラブ活動を推進するために，4-H クラブ委員会の役割は重大である。独立した組織でもいいが，クラブ代表を加えた総合的な普及委員会を組織して代替するのも一方法である。

5) 4-H クラブ財団がない。4-H クラブ財団は民間の立場から4-H クラブ活動を自主的に推進する篤志団体である。同財団の設立によって中央的または地方的4-H行事やプロジェクトの発展が期待される。

直接および間接に農業を対象として運営されている実業団体や青少年の教育に深い関心をもっている個人はすべてが立派な協力者の対象である。

参 考 文 献

1) American-Korean Foundation 1962. An Introducton to Korean Agriculture, p. 102, Moonwha Printing Co. Seoul, Korea.
2) Anderson, O. B. 1962. Agricultural Extension in the Far East, pp. 4, 16, 52, 72, 79, Communieation Media Branch, USOM, Korea.
3) Extension Divion Development Bureau, M. A. F. 1959. Agricultural Extension Work in Japan, p. 43, Extension Division Development Bureau, M. A. F., Tokyo, Japan.
4) Extension Servic, U. S. D. A. 1950. Here are Some 4-H Facts p. 3, Extension Service, U. S. D. A.
5) 梶田利治 1956. 青年の生産活動 pp. 12, 13. 東京第一図書出版印刷株式会社.
6) Kelsey, L. D. and Hearne, C. C. 1963. Cooperative Extension Work, 3rd. Ed. pp. 1, 26, 40, 53, 244, Comstock, Ithaca, New York.
7) Knaus, K. 1955. Notebook in Extension History, Objectives and Staff Functions, p. 23, Oklahoma Agricultural and Mechanical Collage, Stillwater, Oklahoma.
8) 古謝瑞幸 1967. 宜野座村における農業情報メディアの普及と農民の態度，p. 140, 琉球大学農学部学術報告 第14号.
9) Martin, T. T. 1956. The 4-H Club Leader's Handbook, pp. 119, 120, 134, Harper, N. Y.
10) Michigan State University, Cooperative Extension Serviee, Michigan 4-H Club Leader's Guide, 4-H Club Bulletin 64, p. 37, Michigan State University, Cooperative Extension Service, East Lansing, Michigan.
11) Michigan State University, Cooperative Extension Serviee, Michigan 4-H Projects, 4-H Club Bulletin 314-B, p. 2, Michigan State University, Cooperative Extension Service, East Lansing, Michigan.
12) Michigan State University, Facts About the Michigan 4-H Club Foundation, pp. 1, 2, Michigan State University, East Lansing, Michigan.
13) 宮原誠一 1964. 農業の近代化と青年の教育 p. 91, 94, 96, 農山漁村文化協会，東京都港区.
14) 日本4-H協会，日本4-H協会のしおり，p. 2, 日本4-H協会，新宿，東京.
15) 新田健吉，湯浅甲子 1968. 4-H クラブの手引き，p. 44, 日本4-H協会.
16) 農業改良普及事業十周年記念事業協賛会，1958. 普及事業十年 pp. 40, 221, 農業改良普及事業十周年記念事業協賛会.
17) 農林省農業改良局 1951. 普及便り 第1号 p. 2, 農林省農業改良局.

18) Offiee of Food and Agriculture, International Cooperation Administration, Leadership pp. 2, 3, Offiee of Food and Agriculture. Lnternational Cooperation Administration Washington 25, D. C.

19) 琉球政府企画局統計庁 1964. 農業センサス報告 第2巻 総括編 p. 204, 琉球政府企画局統計庁.

20) Sanders H. C. 1966. The Cooperative Extension Service, p. 261-274, Prentice-Hall, N. J.

21) 資源局農業改良局 1952. 普及便り 第2巻第2号 p. 18 資源局農業改良局.

22) 資源局農業改良局 1952. 普及便り 第2巻第3号 p. 1 資源局農業改良局.

23) Stone, J. Handbook of New Employees of Michigan Cooperative Extension Service, p. 2, Michigan State University.

24) Taiwan Provincial Farmers' Association 1960. Agricultural Extension Education and Field Supervision programs of Taiwan Provincial Farmers' Association, pp. 3, 6, 12, Taiwan Provincial Farmers' Association.

25) 富田竹三郎 1953. 農村社会の教育 pp. 48, 119, 190 高陵社書店.

26) University of Missouri, College of Agriculture, Agricultural Extension Service Guide for County Extension Workers, p. 20, University of Missouri.

27) United States Department of Agriculture 1956. Parents and 4-H Club Work PA-95, p. 10, 11, United States Departmant of Agriculture.

28) U. S. Departmeut of Agriculture, 1952. Organization of 4-H Club Work p. 9, U. S. Department of Agriculture.

Summary

1. This study was made in an attempt to analyze educational and social factors influencing 4-H Club activities and to consider some countermeasures for them in the Ryukyus.
2. The study was made mostly basicing on the results of 43 questionnaires and some interviews that were handled on present and former outstanding 4-H members and respective leaders selected from over the Ryukyus.
3. The investigation period of the study ranges from July of 1966 to June of 1968.
4. Following nine statements were found out as important educational factores:
   1) The 4-H Club program is unbalanced and too slmple because of overe tending of project activities. It is very important to develop well balanced whole 4-H program consisting of supplementary and general activities beside the project activities in order to give wide opportunities which enable club members to grow to a well adjusted adult.
   2) The 4-H project is unbalanced because of tending to productive fields of agriculture. The basic purpose of 4-H project work is to provide them with scientific work habit through the practice of the projects, not to get or increase production of agriculture. It is needed to give them wide opportunities of selection of projects basing upon the interest and the needs of the members, also depending upon the family and local situation.
   3) Most of the Club members enroll in the 4-H Club from they got older. The results of the questionnaires show that more than 50% of 43 club members enrolled in it as older than 20 years. It should be encouraged that boys and girls join the 4-H Club right after the graduation of Junior High School, from the view point of learming efficiency and maintaining their interest and cooperation for long period of time.
   4) The official 4-H age ranges too wide. This fact usually causes new members get hard in concert with seniors through the 4-H Club activities. In order to avoide it, it is reeommended to divide the age group into two types of club–general 4-H Club with members from 15 to 20 years old and youth agricultural club with members from 21 to 25 yeais old.
   5) The number of 4-H members of girls is too small. It has been less than 20% of total 4-H Club enrollment. More participation of girls to the 4-H Club should be stimulated from the view points of importance of family farming situation and function of the house-wives in family and social life.
   6) Lack of system of 4-H Club agent. 4-H Club work is one of the 3 major areas of extension work paralleling with agriculture and home demonstration works. The responsibility of 4-H Club work has been substituted by that of both extension agents of agriculture and home demonstration. It is desirable to develop the 4-H Club agent who specially devote his and her time to the club work.
   7) Lack of 4-H bullentins. There has been no case of publication of project books especially edited for 4-H Club members except record books. It is needed to issue them and distribute to all the respective members so that they may be able to get more opportunities of selection of projects and carry out the project works easily basing upon their level of experience and interest.
   8) No participation of elementary and Junior High School boys and girls to the 4-H Club. They are encouraged to become member of the club from the view points of develop-

ment of younger citizens who can contribute to the rural development by understanding of importance of rural life. Through the 4-H Club activities, the boys and the girls will be able to experience in various fields of social and subject matters which help their school curriculum activities, by "learning by doing" practice. This system has been conducted in many countries in the world.

9) There has been no formal technical training agency that absolutely aims for rural youth development in the Ryukyus. As agricultural management training center, it is established by each prefectural government nation-wide in Japan. It functions not only technical development in agriculture, but also emphasizes leadership development through group activities. The trainees are expected to become a pilot when they have completed the course, in the 4-H Clubs and rural society.

5. The following five statements were found out as important social factors.

1) Lack of local volunteer leaders. This is caused by resons of lack of understanding of the 4-H Club work by adults, and no opportunities of leaders training program. The responsibility of training of leaders belongs to extension agents primarily. It is encouraged to conduct the program on the level of district and center with cooperation of the extension specialist and the main office. The volunteer is both a means and an end in extension work.

2) Lack of parents' understanding in 4-H Club work. In order to meet the basic needs of 4-H Club work, parents' understanding and cooperation are essential for the club members. Especially it is very important under the situation of family farming in which young boys and girls play important poart of labor, and their projects work may influence the conciderablly small farm land of the family. Informing Parents+Asking Parents=Parents' Cooperation.

3) The 4-H Club has been organized only on som limited areas in the Ryukyus. As present of 1966, it seldom expands into other townships concentrating over only 8 of 59 total townships. Development of pilot members of 4-H Clubs organized basing on wide range on each township is considered as an effective means of expansion of the 4-H Club.

4) Lack of system of 4-H Club committee. The development of 4-H Club committee is very important for the 4-H Club program from the view points of protecting youth from official treatment, and getting more understanding and cooperation of many people. Beside independent organization, synthetic extension committee as a whole involving the representatives of 4-H Clubs would be considered under the case of the Ryukyus.

5) Lack of organization of 4-H Club foundation. The 4-H Club foundation is an organized group of public-spririted citizens serviing without pay who are vitally interested in development of the 4-H Club program from a private standpoint. According to the development of the organization, not only local and center wide 4-H events would be promoted, but also the employment of the 4-H Club agents may be employed by the private funds. Most private persons and organizations relating to agriculture directly or indirectly are expected to become a good partnership member of the foundation.